



出版を通じて地域の文化を支える “ものがたりカンパニー”

株式会社梓書院 代表取締役社長 田村 志朗氏

創業から50年以上続く 福岡の老舗出版社

ネット通販や電子書籍の普及により、全国で書店の閉店が相次いでいます。書店がない自治体も増加し、文化や知識のインフラ維持が危ぶまれる中、出版を通じたさまざまな事業に取り組んでいるのが、福岡市博多区千代にある(株)梓書院です。昭和47年の創業以来、約半世紀にわたり地域の文化創出に寄与してきました。

梓書院を創業したのは現会長の田村明美さん。子どもの頃に交通事故で片足を失い、外で体を動かすかわりに家の中でできる読書に没頭。ハンディキャップがある自分に自由を与えてくれる本に感銘を受け、書籍づくりを目指

して大学卒業後に出版社に入社しました。ところがなかなか本作りに携わることができず、35歳の時に梓書院を創業。昭和54年には当時ブームとなっていた古代史をテーマにした雑誌『邪馬台国』の刊行に漕ぎつけました。以降、「古代史に強い」出版社として、出版業界でその存在感を強めてきました。

現在では先代の跡を継ぎ、息子の志朗さんが代表取締役社長に就任。「創業当時から出版の流通ベースは東京でしたから、広島の本屋に届けようとしても一度東京に送る必要があるなど、福岡で本をつくること自体が手間のかかることです。周囲からの反対もあったようですが、福岡の出版文化を向上させたいという思いから梓書院はスタートしました。当社はある種、九

【プロフィール】

福岡県生まれ。シティ大学(現・ロンドン大学シティ校)を卒業後、イギリスで決まっていた物流会社への就職を辞退して帰国。2001年より家業である梓書院に入社。2006年に先代の跡を継ぎ、代表取締役社長に就任。

州・福岡で本をつくりたいという方たちが気軽に相談できる窓口。自主企画の雑誌だけではなく、自費出版事業にも取り組みながら歴史を重ねてきました」と志朗さんは振り返ります。

頭の中の物語を具現化する ものがたりカンパニーへ

近年では活字離れが加速し、雑誌の廃刊が増え出版業界は苦境に。そこで梓書院が打ち出したのが“ものがたりカンパニー”への転換です。「私の代になって出版社という考えを改めました。私たちの仕事は本をつくりたいという人だけを相手にするのではなく、皆さんの頭の中にある物語を広める、具現化することだと感じています」と



1



2



3



4

- 1 地元福岡市やメディアとも協力し、ユニークな本を発信し続ける梓書院。出版だけでなくイベント展開など広がりのある取組みを進めている
- 3 2022年には創業50周年を迎え、記念式典の様子をオンラインにて配信。周年記念ロゴを印字したしおりも作成した

- 2 地域の偉人にスポットを当てた漫画制作は梓書院の特徴のひとつ。行政と協力して制作し、児童図書などとしても活用されている
- 4 ゆるキャラグランプリで入賞した福岡県大野城市のPRキャラクター「大野ジョー」を手掛けたのも梓書院。行政や企業のプロモーションにも関わっている

志朗さん。そこで事業領域を拡大し、雑誌や書籍だけではなく漫画事業をスタート。現在では梓書院のコア事業になっています。

「いわゆるアクションやスポーツなどの少年漫画ではなく、私たちが手がけるのは偉人漫画。世の中にはエジソンや織田信長などメジャーな人物の伝記漫画はあっても、地域の偉人は取り上げられません。地方の出版社ですから、知られざる地域の偉人を紹介することも新しい“ものがたり”の創出だと思います」と、志朗さんは手応えを感じています。

また、漫画事業では自治体とタッグを組み、企画から取材、制作までを担当。作画に関しては全国各地のプロ・セミプロの漫画家に協力してもらい、漫画の制作から納品までを全てオンラインで行うことでコストを抑えています。「全国の主要都市にはイラストや漫画の専門学校がたくさんありますが、実際の仕事につなげるのは難しいもの。そういった若い人たちの力も活用できるのが漫画事業です」と志朗さん。今後は漫画をつくりたい人・企業と漫画家をつなぐマッチングサイトに力を注

ぎ、海外展開も視野に入れていると言います。

視点と視界と視座を変え 物事を捉えることが重要

いち早く電子書籍にも対応するなど、中小企業ならではの柔軟性やフットワークの軽さを活かしてきた梓書院。書籍化前のマーケティングとしてデジタルを活用するだけでなく、今後の書籍インフラとしての未来を見据えています。「今の若い人にとってはスマホやタブレットが本なのだと思います。大切なのは媒体ではなく中身であるコンテンツ、物語ですから」と強調。他方で紙媒体についても「行間でさまざまなことを想像する小説など、時代の流れと関係のない普遍的な物語は紙のほうが良いですね」とこだわりを見せます。

また、梓書院では出版を通じてさまざまな事業に取り組んでいます。その1つが企業の広報活動。採用のための本や理念を伝える本を制作し、企業のブランディングを図っています。「企業のPR(=Public Relation)において大切なのは、単なる一方通行のプロモーション

ンではなく、周囲との関係性をどう構築していくか、いかにファンを作っていくかにかかっています。企業の物語を伝えるツールとして出版を活用してもらえはす。それが出版社シェアリングという事業。福岡を中心に顧問先の企業も増えています」と期待を込めます。

「事業のヒントは身近に転がっているもの。視点と視界と視座を変えて物事を捉えると、思わぬアイデアが出てきます。そしてノウハウ(know-how)ではなくノウフー(know-who)。たくさんの人と知り合い、相談することを大切にしています」と志朗さん。

大きく社会が変化していく現代。企業経営は困難を極めますが、梓書院は果敢にチャレンジを続けます。

取材日：6月3日



梓書院

株式会社梓書院

〒812-0044 福岡市博多区千代3-2-1 麻生ハウス
TEL.092-643-7075
<https://www.azusashoin.com/>